

今朝の聖書から

“わたしのいましめは、これである・・・”とイエス様は12節で語られます。ここで“戒め”と訳されている言葉は、“命令”と訳したほうがはっきりする言葉で、殆どの英語の聖書はコマンドという言葉当てています。弟子達、イエス様の救いを信ずる人々にとっては、教訓とか指針である以上に、この戒めを命令として守ることは、喜びに含まれることなのです。“この喜びはイエス様と同じ喜び”なのです。聖餐式の時に“我々が常にキリストにあり”と祈られるのはこのことです。信仰者は“私の内にキリストがいてくださる”という経験を少なからずしています。この経験は一人一人をキリストの内に留まらせるだけでなく、相互の関係をキリストの内にあって堅く結び合わせるのです。そして、たまに忘れていたことをもう一度思い出しておく必要があります。“キリストの内に留まる”とは、“キリストの体である教会において、聖徒の交わりを信じて生きること”なのです。13節では、この愛について、神が御子を通して示されたような、最高の愛以上のものを、あるいはそれ以上の思いやりを、想像したり、説明することはできないのです。つづいて御言葉は“友”というキーワードに進みます。私と同じ思いにある者が私の友なのです。強制を伴ったり、駆け引きに支えられた関係は友ではなく、15節で主は、友に対する言葉を僕（奴隷）という言葉で説明しています。友という言葉と、奴隷という言葉（今は制度として奴隷はいませんが、私たちはイメージすることができます）の違いを考えてみればよく判ることでしょう。この箇所は信徒に対して、召命の尊さを、喜びとして示しているのです。16節に進みましょう。選びの全てが、神の側にあることを伝えています。どの信徒も、“あなたを私のキリストにします”とは言っていないのです。私たちは神様の権威によって召されているのですし、私たちがこのことでどのような誤解を、一時犯そうとも、神様の権威を少しも揺るがすものではないのです。次に“あなたがたを立てる”という言葉が16節に現れています。“立てる”のですからたてたものは主体的に、教会の思いを担おうとするのです。“最高の愛”を十字架上の成就と復活の勝利というかたちで知っているのが、クリスチャンなのです。

週報

2007年 5月 6日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸